

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

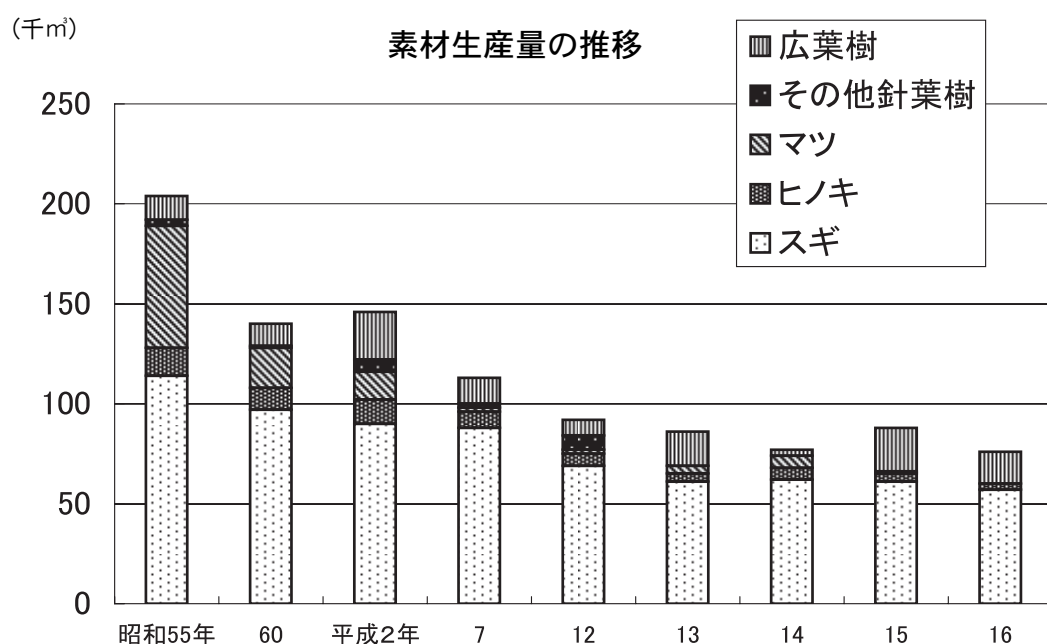
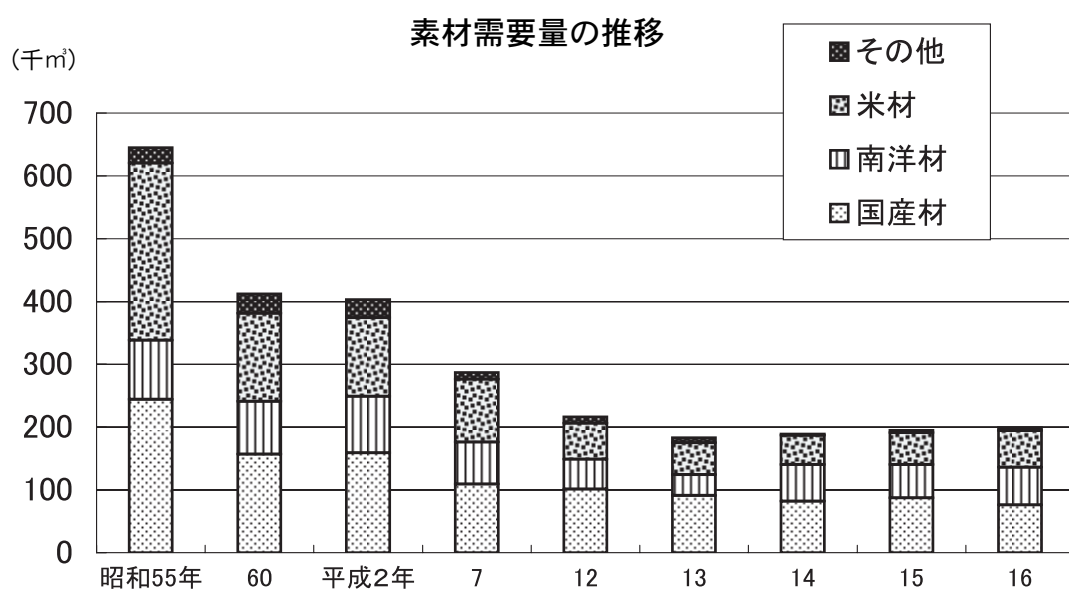
平成16年の素材需給量は前年より4千 m^3 増加し199千 m^3 であった。このうち国産材は76千 m^3 、外材は123千 m^3 であった。

外材のうち、47%は米材であり、49%は南洋材である。

県内素材生産量は、前年より12千 m^3 減少し76千 m^3 で、樹種別でスギ57千 m^3 、ヒノキ3千 m^3 、その他針葉樹はなし、広葉樹が16千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林は前年より2千 m^3 減少し1千 m^3 、公有林は前年と同量で2千 m^3 、私有林は前年より10千 m^3 減少し、73千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は118千 m^3 、製材品生産量は94千 m^3 となっている。



(2) 木材価格

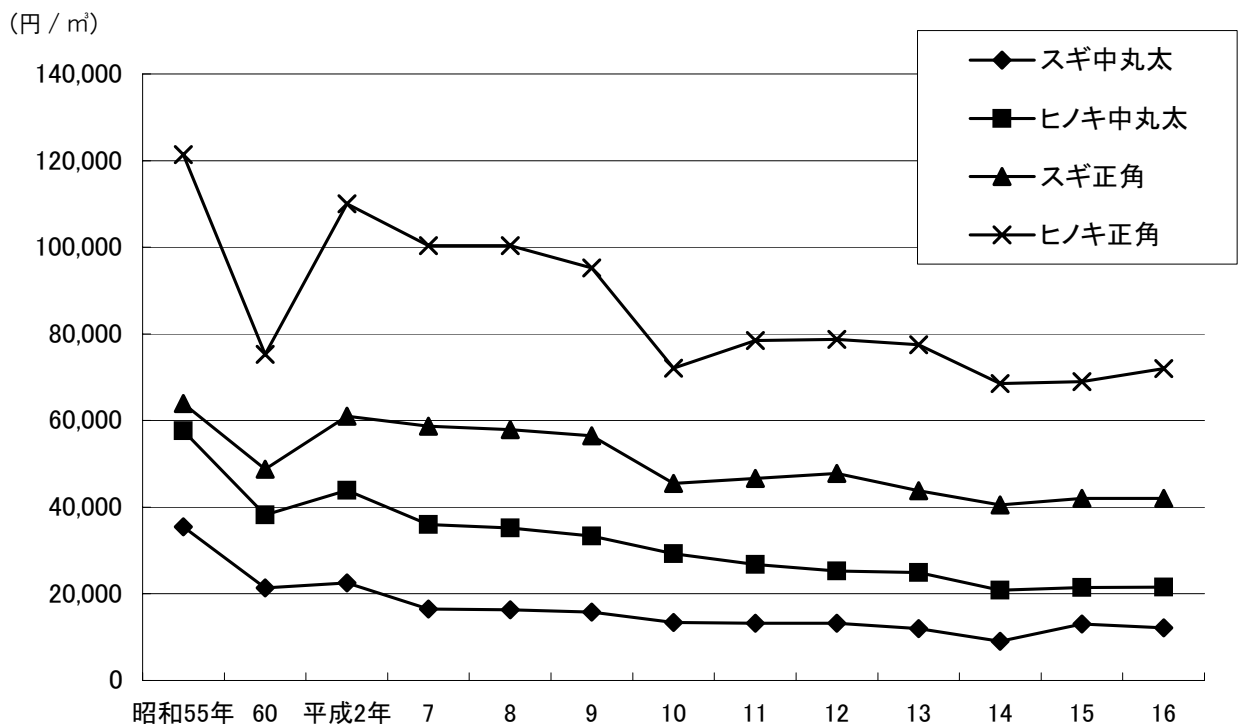
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が引き続き低下傾向となった。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成16年の素材の平均価格は、スギ中丸太が12,139円/m³で対前年比903円の下落、ヒノキ中丸太が、21,542円/m³で125円上昇している。

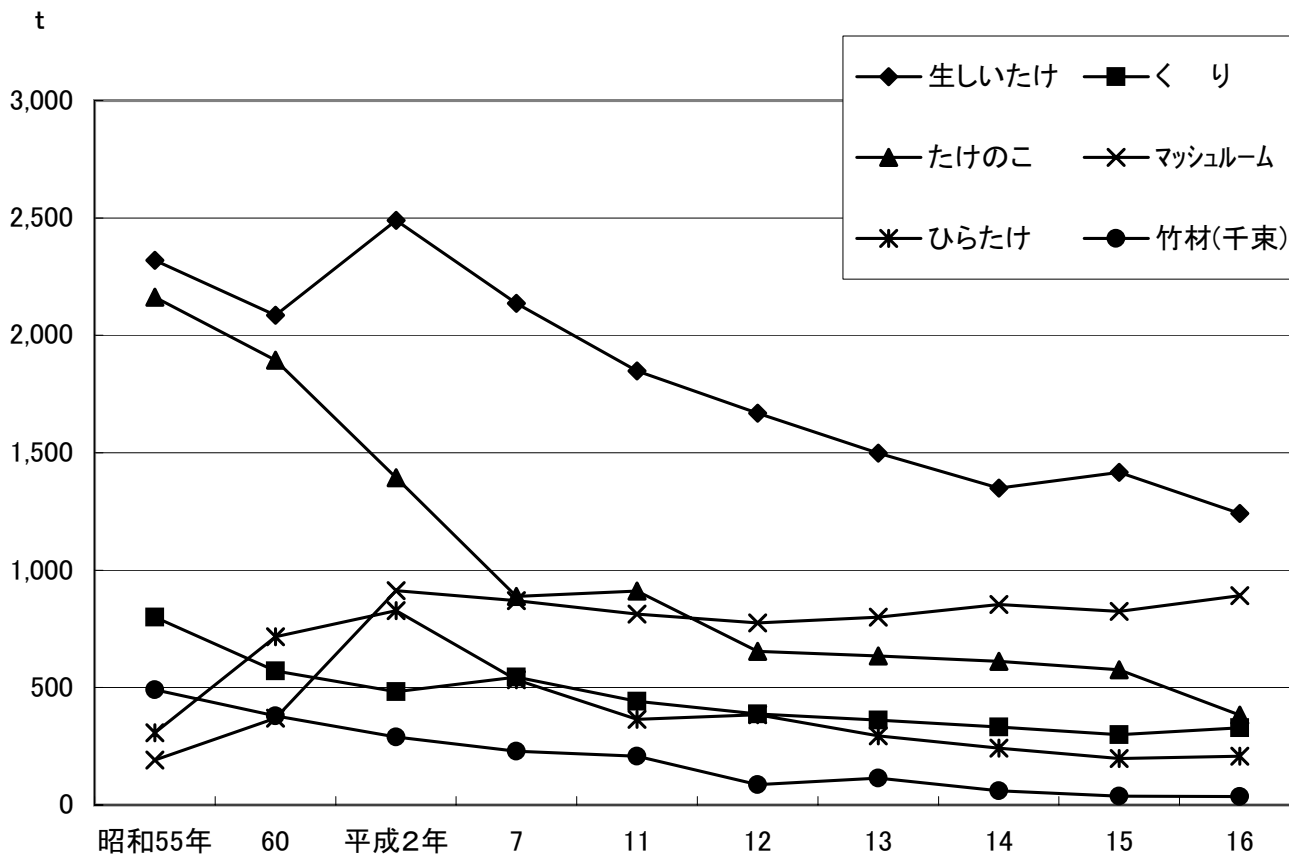
製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が42,000円/m³で前年と同額、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が72,000円/m³で3,000円上昇している。

木材価格の推移



(3) 特用林産物の需給

主要特用林産物生産量の推移



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは原木栽培から自家菌床栽培への切り替えが進んでいるところであるが、前年比12%減の1,242tの生産となった。地域別では千葉が343tと最も多く、次いで夷隅・君津・印旛の順となっておりこれらの地域は補助事業等を導入して産地化が図られている。

マッシュルームは海匝・香取地域において、対前年比8%増の892t生産されている。ヒラタケはほぼ全県で生産されており、対前年比5%増の208tとなっている。

タケノコは生産者の減少、不作及び獣害により前年比33%減の383tの生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く151t、次いで長生・千葉の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比10%増の328tとなった。

竹類では対前年比1%減の36千束となっている。